

Q 1) 何故、平取ダムをつくるのか教えてください。

【回答】

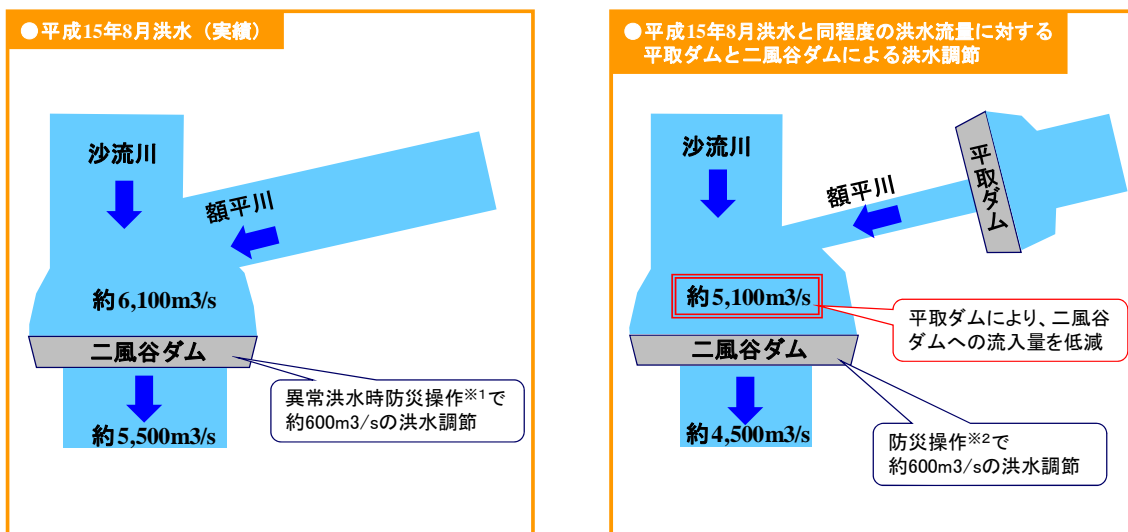
○平取ダムは、平成10年に完成した二風谷ダムとあいまって、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給、発電（二風谷ダムのみ）を目的としています。

・洪水調節

平成15年8月洪水は当時の計画を上回る既往最大の洪水となり、沙流川全川にわたって計画高水位を超え、沙流川流域の日高町、平取町では、家屋や農地が浸水するなど、地域の社会や経済に甚大な影響を与えるものでした。

これを受け、北海道開発局では、平成19年3月に河川整備の計画を変更し、平成15年8月洪水と同程度の洪水を安全に流すことを目指しております。

このうち、平取ダムを建設することにより、洪水の一部を貯め込み沿川河川の水位を下げ、平取町貫気別地区などにおける洪水被害の防止または軽減、また、二風谷ダムと連携して、平取町本町地区や日高町富川地区などにおける洪水被害の防止または軽減を図ります。



図－1 洪水調節の概要

※1：異常洪水時防災操作とは、大きな出水によりダムの洪水調節容量を使い切る可能性が生じたため、流入量と同じ放流量に移行するため放流量を増加するダム操作。

※2：防災操作とは、出水をダムに貯め込んで川の流量を低減するダム操作。

・流水の正常な機能の維持、水道用水の供給

ダム下流の河川環境の保全や日高町、平取町の将来に必要な給水量等も含め、ダムから水を補給し、平取地点において概ね $11\text{ m}^3/\text{s}$ を確保することにより、ダム下流の河川環境の保全や安定した水道用水の供給が可能となります。

沙流川流域の主な渇水被害として、日高町では、平成19年から平成20年にかけて、小雨・小雪等により、水源地の水位が低下し、断水の恐れも出てきたことから、給水車での給水が行われました。また、町民には節水の協力依頼、水道使用量の多い温泉施設においては営業時間の短縮などがありました。平取町では、平成3年2月から3月にかけて、取水井戸の水位が低下したことに伴い、18日間の夜間断水を伴う取水制限がありました。

そのため、日高町、平取町は、水道水の安定供給や渇水期の取水量不足の解消を望んでいます。



図-1 渇水の新聞記事（日高報知新聞：平成19年7月27日）

近隣町から水運ぶ

水不足で節水呼びかけ

非常事態で断水の恐れも

5千世帯の門別地区で今年3度目

【日高】町内門別地区で水不足が深刻化し、町は二十八日から節水呼びかけしている。十一月十二日の降雪・降水量が例年にならないまで、沙流川橋地点にある水源の伏流水の井戸水位が二十七日現在、一・六メートルまで下がった。

町上下水道課では「一・三万が限界の非常事態」といい、門別地区で断水の恐れも出てきたことから管内の周辺三町に協力を得て十、水道タンク車二台で水を運び、職員が二十四時間体制で高川の配水池に給水する。

一方、町民には防災無線や広報車、新聞折り込みチラシなどで節水への協力を呼び掛けている。年末の大掃除で大量の水を使用する時期とぶつかっているため、町では頭を悩ませている。

町上下水道課によると、町内門別地区での節水の呼びかけは今年に入ってから三月と七月、八月に続き三回目。門別地区では今年十一月に水源水位が二メートルに下がった。この二週間で約四十センチまで節水しているが、川面も枯水している状況が続いている。また例年、年末の二十九、三十、三十一日の三日間は一日当たりの水道使用量が普段より約五百リットルの増の三千三百リットルが見込まれることから、町上下水道課では「水源水位が二リットルを安定的に越えるようになるまでは、節水への協力をお願いしたい」と話している。

門別地区の給水人口は富川市街地や門別本町、厚賀など上水道区域で約五千世帯が対象。この事態を受け、水道使用量の多い門別温泉

「とね」この湯では、営業時間を短縮する措置を取ることにした。二十九、二十日は午後四時、午後九時、三十一日は午前十時、午後三時まで営業終了は三十分前までとしている。

図-2 渴水の新聞記事（日高報知新聞：平成19年12月29日）